

2018(平成30)年度 事業計画書

社会福祉法人十字の園

2018(平成30)年度 事業計画基本方針

十字の園の理念 聖書「夕暮になっても光がある。(ゼカリヤ書)」

言葉「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」

創立50周年からのテーマ『創立の精神から、新たな福祉に挑戦』

1. 創立の精神(理念)を受け継いでいくことへの具体的な行動

社会福祉法人十字の園は2020年に創立60周年を迎える。4代目理事長平井は、これまでに調べた歴史資料と研修等で伝えてきたことを一冊の本『創立の精神(こころ)の継承(バトンタッチ)』として2017年に自費出版した。また、創立50周年にまとめた記念DVD、記念誌や、50周年以降に収集した資料・データをPDFにまとめた。創立時から十字の園を築いてきた第1世代(初代・2代理事長)を措置時代とすれば、そのあとを受け継いだ第2世代(3代・4代理事長)は介護保険時代である。第3世代は施設収容型から地域とともに生活する共生社会時代となる。制度や法律が変わっても、創立の精神を、イエス・キリストというすでに据えられた土台のもと「十字の園らしさ」の中で事業を展開してきた。2018年度は第3世代が受け継いでいくために、足掛かりになるよう行動する。今年度の十字の園大会は、自らの言葉で十字の園のキリスト教福祉が語られることを期待して、「キリスト教福祉って何」をテーマに松崎にて開催する。

2. 内部管理体制の基本方針に基づく体制を具体的に整備する

社会福祉法第45条の13第4項第5号及び第5項により制定した「内部管理体制の基本方針」に基づき、次の項目について順次整備していく。①法令及び定款に適合することを確保するための体制を整備するために「法人行動規範」の策定、「内部通報体制」の整備、「内部監査体制」の整備を行う。②情報の保存及び管理のために、「文書管理規定」及び「情報開示規程」を整備する。③損失の危険の管理のための「リスク管理規定」を作成する。④理事並びに職員の職務が効率的に行われるために、職務分掌を含めた「職務権限規程」を策定する。

3. 十字の園ファミリー(神の家族)として「キリスト教精神に立って」の運営をする

十字の園は創立時より「一日をみ言葉(礼拝)をもって始める」ことを大切にしてきた。しかし、介護保険制度の提供時間、体制加算などの制約により職員が礼拝に出席できなくなっている。2018年度は、原点である「み言葉をもって始める」に立ち戻り、各サービス区分で「日めくり聖書(み言葉)カレンダー」を掲示し、聖書(み言葉)に触れる機会を増やしたい。また、法人規模が大きくなり職員数も増えてきたとしても、創立時の家族的な職員関係、利用者との関係も家族的であったように、「家族」をキーワードにして、職員と職員、職員と利用者、事業と地域との「共生社会」の実現を試みたい。

4. 職員育成プログラムと職員待遇の改善への具体的な取り組み

人材育成制度改革プロジェクトでは、「社会福祉法人十字の園における人材育成方針」による職員育成を実施していくとともに、昨年に引き続き十字の園版「職員評価シート」の精度を高め、一人ひとりの職員の強みを生かしていきたい。「十字の園の働き方改革」として、賃金プロジェクトでは、前年度に準備して採用した「定年65歳と職務、待遇」について実施して、検証するとともに、評価基準、キャリアアップ制度に対応する給与体系(給与表)を策定して、職員待遇の見直しと一人ひとりの職員が自分の持ち味を出して活躍できる改革に取り組んでいきたい。人材確保については、十字の園の魅力を発見・発信し、新卒、中途採用につなげていく。また、やむを得ない退職者を少なくする。さらに、介護機器(ロボット)の開発に協力し、「楽(らく)して、楽(たの)しい」職場作りを目指していきたい。

5. 法人・施設の健全な経営と中長期計画の具体的な構想作り

2017年度における法人の財政状況は、当年度内の資金確保はできているが、人件費の定期昇給の資金積立や新規事業、老朽化に対応する施設整備資金の積み立てが少ないため、中長期計画を立てることができない。また、借入金の償還のほか、固定資産、施設整備等のリース等の固定的支出割合が多いことも課題である。そのため、2018年度は事業計画・予算をサービス区分ごとに担当責任者とヒヤリングをして目標・予算を作成し、月次実績と目標・予算の検証していき、課題と対策を考えていきたい。もちろん、採算性の低い事業もあるができる限り改善の努力をしてほしい。「あなたがたはもはや、神の家族である(エフェソ2:19)」というように、一人ひとりが自分の与えられている仕事に力を出し合って、互いに助け合い、信頼し合い、支え合って、これからの十字の園を築いていってほしい。そのことにより十字の園全体の財政基盤が安定し、将来への展望を開いていくことができると思う。

社会福祉法人十字の園 2018年度事業計画書

『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。』(ヨハネによる福音書15章)
『夕暮になっても光がある』(ゼカリヤ書14章)

I. 法人事業計画

1. 2018年度事業計画基本方針(重点課題)

- ① 創立の精神(理念)を受け継いでいくことへの具体的な行動
- ② 内部管理体制を基本方針に基づき具体的に整備する
- ③ 十字の園ファミリー(神の家族)として「キリスト教精神に立って」運営をする
- ④ 職員育成プログラムと職員待遇の改善へ具体的に取り組む
- ⑤ 法人・施設の健全な経営と中長期計画の具体的な構想作り

2. 重点課題への取り組み

- ① 理事会
 - ・ 法人意思決定、業務執行、理事・理事長の職務を監督牽制する
 - ・ 基本方針に基づき内部管理体制を整備する
- ② 理事長
 - ・ 理念の継承を図り、行動規範を策定する
 - ・ 次代の経営責任を担う管理職の育成
- ③ 副理事長、地区統括担当理事
 - ・ 管轄地区の組織検討し統合化を推進する
 - ・ 管轄施設長を指導支援し、法人内・地区間・施設間の連携を推進する
- ④ 法人管理会議
 - ・ 地区別組織を再編し、3地区組織体制とする
 - ・ 内部管理体制に係る規程の整備
理念、行動規範策定委員会を設置する、職務権限表・職務分掌を作成、稟議規程、文書管理規程、情報開示規程を整備する
 - ・ コンプライアンスの徹底
コンプライアンス担当理事・委員会を設置する、内部通報・相談・提案窓口を設置する
 - ・ ハラスメントの防止・意識改革をおこない、関連研修を実施する
 - ・ リスク管理体制を整備する
リスクマネジメント担当理事・委員会を設置する、リスク管理規程の制定
 - ・ 経営の健全化、効率的な業務執行体制
各拠点の経営課題を把握・改善し、自立した経営を確立する
適切な収支差額、建物・備品等の整備・修繕の積立、
 - ・ 中長期計画の検討、医療介護報酬改定への対応
 - ・ 法人の資金を集中管理し事業展開を推進する
 - ・ 人材確保
65才定年制実施、非常勤職員の無期雇用契約開始、
採用活動強化(採用担当者会議による企画・実行)、奨学金制度(返済免除)実施、
- ⑤ 西部地区(上野副理事長)
 - (1) 浜松3施設一体経営に向けての取組み
 - (2) 経営健全化
 - (3) 浜松十字の園改修計画の推進と資金確保
 - (4) 地域包括ケアシステムの推進
 - (5) 地域貢献の推進
- ⑥ 伊豆地区(三條副理事長)
 - (1) 伊東・松崎地区事務の集中化及び指導支援体制の確立
 - (2) 伊豆高原十字の園と伊東養護の経営改善、伊東養護の移転改築構想の検討
 - (3) 伊東市内の運営統合化を見据え人事・運営の連携協力を推進する
- ⑦ 御殿場地区(平井理事長)
 - (1) 2025年を見据えて施設・地域の課題へ取り組む
 - (2) 第2地域包括支援センターの開設運営
 - (3) サテライトデイの移転、新規事業の検討

- ⑧ 内部監査部門
コンプライアンス、リスクマネジメントへの各施設の取り組み、サービスの質・介護の質について監査を実施する
- ⑨ 研修部門
- ・ 新任職員研修, 中堅職員研修Ⅰ, 中堅職員研修Ⅱ, リーダー研修, 管理者研修の企画実施
 - ・ キャリアに応じた研修補助制度を整備し、自己啓発を促進する
 - ・ 階層別研修のシラバス作成、研修体系化を進め、階層別研修の充実を図る
- ⑩ 人材育成制度改革プロジェクト
- ・ 職員評価システム（一般職～主任）の試行を継続運営する
 - ・ 人事制度、評価基準、給与体系の検討継続し、制度策定を目指す
- ⑪ 職務部会（給食、リハビリ、広報、相談員ケアマネ部会）
- ・ 専門職能における課題に取り組み、地区、施設及び職員相互の連携と専門性の向上を図る
- ⑫ 2018年度十字の園大会
第23回十字の園大会は、松崎十字の園・オリブが担当する
大会テーマ『「キリスト教福祉って何」変えることのできるものと、変えることのできないもの。』

3. 2018年度 事業種類・規模・定員等

(数値は定員数、○は実施事業)

事業種類		浜松	御殿場	御殿場 アドナイ	伊豆 高原	アドナイ	松崎	オリブ	伊東 養護	第2 アドナイ	合計	
老人福祉事業	第一種	特別養護老人ホーム	120	107		90		50			367	
		軽費老人ホーム(ケアハウス)			30		50				20	100
		養護老人ホーム(指定管理事業)								50		50
	第二種	老人短期入所(ショートステイ)	20	11		10		9		6		56
		老人デイサービス事業(通所介護)	22	35		27	30	25		15	10	164
		老人デイサービス(Ⅱ、認知症)		12								12
		老人デイサービス(委託・生きがいデイ)								15		15
		老人デイサービスセンター(サテライト含)		10						10	12	32
		認知症対応型共同生活介護(GH)		18								18
小規模多機能型居宅介護事業										24	24	
老人居宅介護等(訪問介護)			○		○		○		○			
障害者福祉事業	第一種	障害者支援施設						22			22	
	第二種	障害福祉サービス(短期入所)		○					2		2	
		障害福祉サービス(生活介護・通所・訪問)		○		○			27		27	
		障害福祉サービス(就労支援B型)							20		20	
		特定相談支援		○					○			
		移動支援		○		○						
地域活動支援センター		15								15		
公益事業	居宅介護支援事業(ケアプラン)		○		○*2		○		○	○		
	地域包括支援センター(委託)		○*2		○							
	患者等輸送事業(介護タクシー)		○		○							
	診療所	○	○									
公益的事業	老人デイ(根洗荘・自主事業)								○			

4. 2018年度 職員配置計画

(単位;人)

		本部	浜松	御殿場	御殿場 アドナイ	伊豆 高原	アドナイ	松崎	オリブ	伊東 養護	第2 アドナイ	合計
常勤	専従	6	69	98	2	64	12	41	20	27	30	369
	兼務	3	5	24	2	42	8	7	21	35	8	155
非常勤	専従	0	42	57	0	66	18	24	6	15	27	255
	兼務	0	0	11	1	28	0	2	12	5	16	75
合計	専従	6	111	155	2	130	30	65	26	42	57	624
	兼務	3	5	35	3	70	8	9	33	40	24	230
常勤換算		6	94	136.9	3.4	114.2	23	42.3	24	34.2	50.2	528.2

5. 2018年度 資金収支予算規模

()は2017年度当初予算、万円未満切捨て

	収入	支出	収支差額
事業活動による収支	34億5,692万円 (34億0,962万円)	32億6,085万円 (32億2,395万円)	1億9,607万円 (1億8,566万円)
施設整備等による収支	1億0,968万円 (1,796万円)	3億3,603万円 (1億6,400万円)	△2億2,635万円 (△1億4,604万円)
その他活動による収支	7,289万円 (2,725万円)	3,401万円 (5,220万円)	3,888万円 (△2,494万円)
当期資金収支差額	—	—	859万円 (1,467万円)

6. 2018年度 借入金等の計画

① 新規借り入れ実施計画

- ・ 浜松十字の園 省エネ改修工事資金 50,000,000円借入 15年返済

② 2018年度償還表

単位;円

施設名	借入先	元金償還金	利子	元金補給	利子補給	年度末残高	自己資金
浜松	福・医機構 98	1,500,000	16,500	680,000	1,360	0	835,140
	静岡銀行 18	3,340,000	303,500	0	0	46,660,000	3,643,500
御殿場	福・医機構 98	32,500,000	202,070	6,965,000	3,130	0	25,733,940
	静岡銀行 14	4,680,000	514,609	0	0	46,600,000	5,194,609
	静岡銀行 16	3,996,000	340,078	0	0	50,676,000	4,336,078
	静岡銀行 17	1,500,000	82,314	0	0	13,375,000	1,582,314
御アドナイ	福・医機構 00	6,630,000	182,200	3,315,000	91,100	5,795,000	3,406,100
伊豆高原	福・医機構 11	51,420,000	8,383,597	0	0	617,040,000	59,803,597
	静岡銀行 11	11,640,000	1,628,431	0	0	139,700,000	13,268,431
アドナイ館	静岡銀行 13	6,000,000	314,136	0	0	24,000,000	6,314,136
松崎	福・医機構 02	14,000,000	952,000	7,000,000	392,000	42,000,000	7,560,000
第2アドナイ館	福・医機構 09	6,290,000	1,085,025	0	0	69,190,000	7,375,025
	静岡銀行 09	4,102,000	506,352	0	0	43,082,000	4,608,352
合計	福祉医療機構	112,340,000	10,821,392	17,960,000	487,590	734,025,000	104,713,802
	静岡銀行	35,258,000	3,689,420	0	0	364,093,000	38,947,420
	合計	147,598,000	14,510,812	17,960,000	487,590	1,098,118,000	143,661,222

③ 2018年度ファイナンスリース返済計画

単位；円

施設名	物件	年間支払額	年度末リース残高
法人本部	給与・財務（パソコン・サーバー）	1,464,480	5,369,760
御殿場	有形リース資産（リフト車両）	513,600	1,540,800
御殿場	無形リース資産（ソフトウェア・サーバー）	702,432	1,346,328
伊豆高原	サーバー・ソフトウェア	1,411,344	5,645,376
アドナイ	車両（ハイエース5245）	571,200	380,800
松崎	省エネ・ビルマネ・電話コール・請求ソフト	13,307,184	147,582,382
オリブ	請求ソフト	1,014,120	3,042,360
合計		18,984,360	164,907,806

7. 施設設備・固定資産整備、修繕計画、その他特別事業について

① 浜松十字の園

空調・照明更新と屋根・窓の断熱化（既存建築物省エネ化補助金活用 126,438,000円）

勤怠管理システム更新（190万円）、リフト浴槽設置（400万円）、診療所エコー検査設備（100万円）

② 御殿場十字の園

特殊浴槽の更新（550万円）、地域包括支援センター建築工事（1500万円）、

送迎リフト車両更新（300万円、リース）、送迎普通車両（180万円）、身障天井リフトの更新（100万円）、非常用発電機2台修繕（200万円）

③ 伊豆高原十字の園

デイ送迎車両2000ccクラス（300万円、リース）、低床ベッド5台（120万円）

④ アドナイ館

デイ浴室改修工事（300万円）、デイ送迎用車両の更新（300万円、リース）

⑤ 松崎十字の園

短期入所軽車両（180万円、リース）

⑥ 伊東市立養護老人ホーム

車いす対応車両（200万円、リース）、建物設備の修繕は伊東市と協議

II. 地域福祉及び公益的取組の推進

① 浜松十字の園

- ・認知症カフェの開催（毎月第3土曜日に喫茶室で開催）・労作受入（聖隷クリストファー高校）
- ・実習受入（福祉・看護・栄養士等の教育機関）・ボランティアの受入・中学校ボランティア受入（オリエンテーションの中で十字の園のDVDを使い、福祉の実践例を紹介している）。

② 御殿場十字の園

- ・在宅家族介護者教室（絆の会）年3回開催し、在宅家族の介護力の向上や交流を図っている
- ・小学生の福祉教育、中高生の職業体験やボランティア及び実習生を積極的に受け入れ福祉人材の育成を図る、在宅サービス利用者の持ち帰り弁当を継続、

③ 伊豆高原十字の園

- ・地域交流ホールの無料貸し出し、対島地域ふるさと協議会と連携した認知症の勉強会、サロンなどへの協力（送迎含む）、計画的な介護体験の実施

④ アドナイ館

- ・デイ利用者と地域の幼稚園園児との交流会、地域のこども園園児とケアハウス入居者との交流
- ・細江町文化祭に参加して地域との交流を図る、湖東地区の夏祭りに参加をし交流を図る
- ・区民公開講座を開催し、市民の介護力向上に寄与する、みをつくし文化センター主催、子供チャレンジ仕事体験、介護部門担当する、地域へ、ソーシャルワーク機能を展開（福祉なんでも相談）

- ⑤ 松崎十字の園
 - ・在宅利用者等の緊急（虐待等の対象者）受け入れ・地域ふれあい広場への出品、・地域園児、生徒、学生との交流、・町役場の包括支援センターに職員を派遣する
- ⑥ 伊東市立養護老人ホーム
 - ・伊東市立大池小学校4年生との交流会、・ショートルの緊急受入れ（DV等）・デイサービス事業所での地域住民の参加の行事の企画、開催。地域行事への参加、
- ⑦ 第2アドナイ館
 - ・地域カフェ、サロンの開催、講座などを企画、・デイ事業所を地域に開放し運動の機会を提供、・バザーの開催、・ボランティアの受け入れ、・中学生の介護体験受入

Ⅲ. 2018年度 主要会議、研修、行事 年間計画

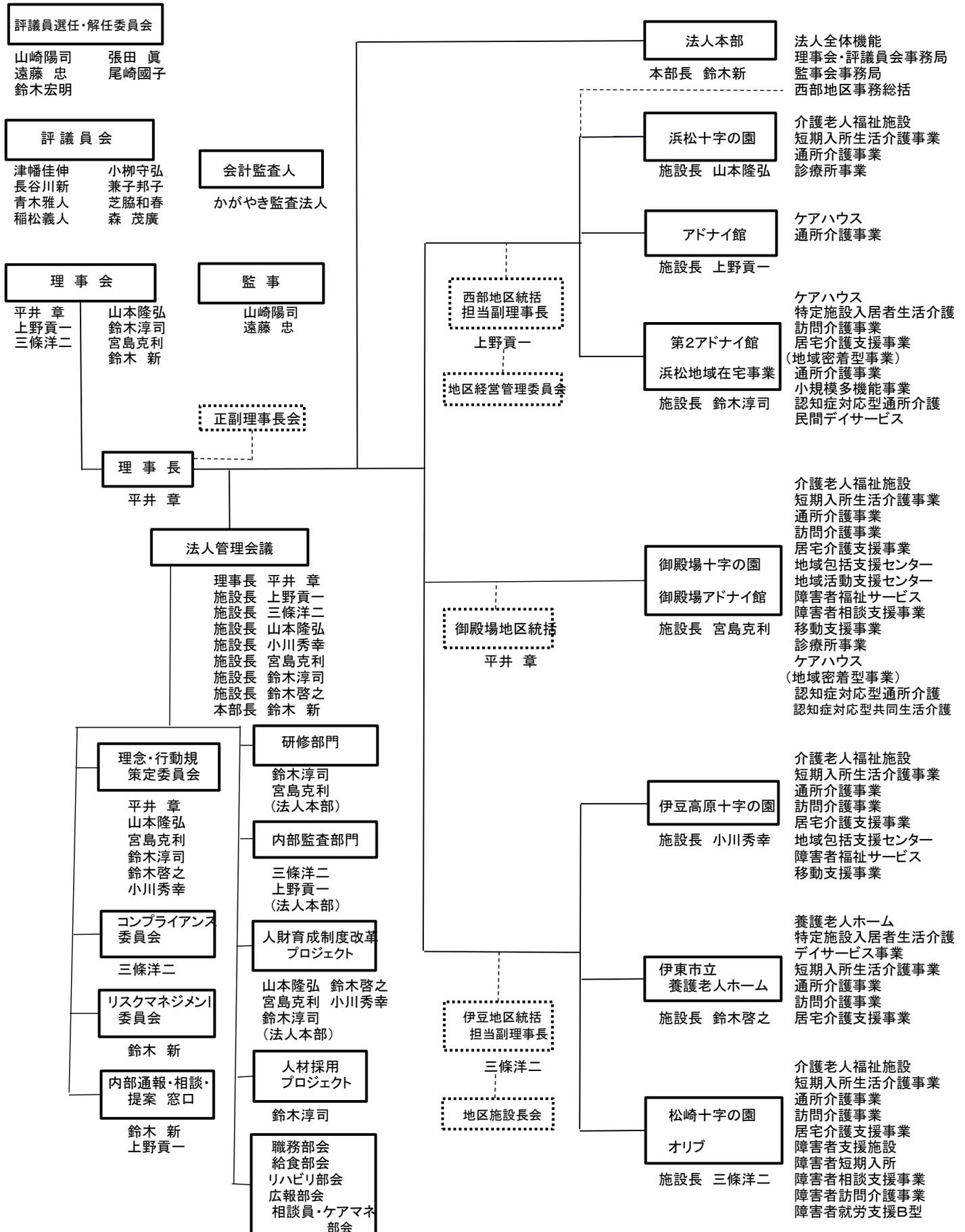
区分	理事会	評議員会	監事監査 監査法人監査	法人管理会議	法人職員研修	その他
4月			24, 25日 監査法人	27日 第1回	新職員研修	辞令交付式 委嘱状交付
5月	28日事業報告 決算・その他		7-11日 監査法人監査 監事監査 事業報告決算	21日 第2回		
6月		18日決算承認		22日 第3回	中堅研修Ⅰ	6月未決算資産登 記7/1 機関誌発行 8/2, 3 内部監査 9/5-8 内部監査 介護保険実地指導
7月			27日 第4回	中堅職員Ⅱ		
8月				24日 第5回		
9月	28日業務執行 報告、その他			21日 第6回	リーダー研修	永年勤続表彰
10月				26日 第7回	16-17日 十字の園大会	中途新任職員研修
11月	30日補正予算 その他		監事定期監査	21日 第8回	主任・事業管理 者研修	
12月				21日 第9回		12/1 機関誌発行
1月				25日 第10回		1/20 創立記念日
2月				22日 第11回	リーダーフォロ ーアップ研修	予算ヒアリング
3月	15日事業計画 当初予算他	25日事業計画 当初予算他		12日 第12回		

IV. 法人組織図

社会福祉法人十字の園 2018(平成30)年度 法人組織図

2018年4月1日付

(主な事業内容)



法人本部 2018年度 事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

『夕暮になっても光がある』（聖書：ゼカリヤ書 14 章）と『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。』を法人の基本理念とし、定款第 1 条に掲げる「キリスト教の精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する」ことを目的とする。

B. 運営方針

2018 年度は介護と診療報酬の同時改定の年にあたり、介護報酬は 0.54% プラス改定といわれているが、法人にとって数値通りのプラスとなるかは不透明である。昨年度の社会福祉法の改正により法人のガバナンスを確保するために、内部管理体制の整備が法律により義務付けられた。十字の園では、内部管理体制の基本方針を 2017 年 11 月の理事会において決定したが、2018 年度は当該方針に基づいて、規程の策定及び見直し等を行い法令等に適合した適正な業務執行をしていくこととなる。

法人本部は、各施設が相互協力し、目標に向けた意思の決定や合意の形成を行いながら円滑な法人運営が図られるよう、ガバメント（組織統治）に取組み、内部管理体制の確立を支援する。また、意思決定機関（理事会・評議員会）の事務局機能を向上させ、執行機能（理事会・法人管理会議）の取りまとめをおこなっていく。又、法律・労務・会計事務所・監査法人と連携し、コンプライアンス、リスクマネジメント及び運営の質と効率の向上を目指し、財務管理（予算管理・経理事務）・給与管理・人事管理（採用）・労務管理の実務に取り組み、法人経営方針に基づき法人全般にわたる所轄事項と西部地区事務を職員 5 人で対応していく。

II. 事業計画

1. 創立の精神（理念）を継承していく

- ・法人の歴史・精神を理事長メッセージ、研修、広報誌により情報発信し理念の浸透を図る

2. 内部管理体制と将来に向けた経営組織の構築

- ・わかりやすい事業運営をめざし、透明性・健全性の更なる向上にとりくむ
計算書類・現況報告・役員報酬基準・事業計画等
- ・内部管理体制の整備（評議員会、理事会、監事、会計監査人の責任・義務・監督・牽制等が適正に機能するよう規定の整備・運用を図る）
 - ①コンプライアンス統括理事、同委員会と連携しコンプライアンス体制を整備する
 - ②コンプライアンスに係る内部通報体制、相談や提案ができる窓口を整備する
 - ③文書管理規定及び情報公開規程を制定する
 - ④リスク管理規定を定め、リスク管理体制を整備する
 - ⑤意思決定のプロセスを明確にして、迅速かつ適切な経営判断を行える体制を構築する
 - ⑥職務分掌を作成し、地区担当副理事長、施設長、課長等の役割及び責任を明確にする
 - ⑦稟議規程・起案申請書を作成する。
 - ⑧理事及び職員から監事への報告体制を整備する
- ・浜松十字の園改修計画の実施・建築計画の再検討を支援する
- ・法人管理会議、研修部門、内部監査部門、人材育成制度改革プロジェクト、各職務部会へ参画・連携する
- ・法律・労務・会計事務所との連携
- ・監査法人と連絡・調整を行う。

3. 人材の育成・確保

- ・人材育成制度改革PJに参画し、評価制度の本格運用に関わり、次世代人材育成を推進する
- ・職員採用活動の拡充（人材採用PJ）、人材の確保の為の環境整備（住居等）、未開拓分野からの職員採用の模索

新卒介護職採用目標；6名以上採用する

- ・職員の不安を軽減するために、ストレスチェックの全施設実施を目標に、安心できる法人をめざす
- ・職員の意欲と満足が向上する処遇、ワークライフバランスを意識した労務環境の検討
- ・法人本部職員の資質向上、自己啓発
- ・長く働ける法人をテーマに、福利厚生（法人内補助制度等）の検討
- ・西部地区事務統合に向けて職員配置を検討する
- ・法人本部の職務分掌の見直しを行い、役割及び責任を明確にする
- ・役職登用基準を検討し、求められる能力を明確化する

4. 施設の健全な経営と中長期計画の具体的な構想作り

- ・施設経営の健全化を目指し、施設事務職員の能力向上の為の指導・支援を行う。（情報共有、事務レベルの均等化）
- ・法人及び各施設の内部監査、監事監査に協力し監査結果を会計・業務改善に活用する
- ・資金の集中化、適正化と透明性の高い財務管理により、財務基盤の安定を図る
- ・法制度に左右されない財源確保の方策を検討する（介護保険外事業の参加の検討）
- ・平成31年度4月からの一般事業主行動計画の立案
- ・地域において支援を要する人に対して無料または低額で福祉サービスを提供することに、各施設が責務として取り組めるよう支援する
- ・ノーマライゼーションを意識した事業計画の検討（障害者雇用等）

Ⅲ. その他（修繕・固定資産備品購入予定）

- ・各種事務電算化・省力化の推進（給与データ取込システム・給与明細の電子化等の検討）
- ・職員寮の改修

特別養護老人ホーム 浜松十字の園 2018 年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. キリスト教の精神に立って、法人理念「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」に基づき、事業を行います。
2. 聖書の言葉に触れ、愛と奉仕の姿勢を意識し、施設理念「今、私の前にいる、その人の、すべてを、大切にします」に基づき、利用者一人一人が生き生きと暮らしていけるようサービスを提供します。

B. 運営方針

『みんなが笑顔で居られる居場所を創ります。』

1. 利用者一人一人が安心して暮らすことの支援をする。
 - ・利用者の関心事を引き出し、その実現に向けた支援（自立支援）に努める。
 - ・サービス利用を断らない（断る場合は次のサービスへつなぐ）姿勢を全ての部署で持つ。
 - ・省エネ化補助金を活用した空調・照明設備更新と建物断熱化工事を行い、快適な環境を整える。
2. 職員同士が共に育つ力を身につける。
 - ・職種や役職の専門性を互いに理解し、信頼し合えるチームを作る。
 - ・福祉機器の導入など職場環境の改善を現場職員が中心になって研究し提案する風土を育成する。
 - ・施設内研修を充実し、誇りを持って働くことができる職員の育成に努める。
 - ・ハラスメント研修やメンタルサポートを継続し、安心して働ける職場作りに努める。
 - ・各サービス責任者が予算管理を担い、数値目標達成を推進していく風土を作る。
3. 地域のニーズに応え経営体力の強化に努める。
 - ・西部地区3施設の組織一体化を推進し、地域ニーズに応える力を結集・強化する。
 - ・十字の園の取組状況を地域へ発信し、より多くの方のニーズに応える。
 - ・報酬改定や浜松市第7期介護保険事業計画の理解を深め、地域の福祉事業者と情報共有を図り、地域ニーズに応じていく体制を整える。
 - ・さつき棟建替計画の実現に向け、将来にわたり地域の方が利用しやすく、職員が働きやすい環境を整えるため、計画の全面的な見直しを行い、具体化する。あわせて、収支バランスを改善し経営体力を高めると共に浜松市との調整に努める。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 施設サービス課

1. 各職種が協力し合い、職員全員が利用者一人一人に目を向けた職場作りを目指す。

(介護)

1. オンライン動画研修システムを導入し、介護技術の底上げを図る。
2. 介護ロボット等の福祉機器導入の検討・研究を行い、働きやすい環境を作る。

(生活相談員・介護支援専門員)

1. 施設内外の連携をスムーズに行い、利用者が安心して暮らすことができる支援をする。
2. 地域や医療などへ視野を広げ、その人らしく暮らせるためのケアプランのPDCAを実践する。

2. 在宅サービス課

(短期入所生活介護)

1. 医療ニーズへの確に対応できるよう知識とスキルを高める。
2. 利用者の興味を引き出して、「また行きたい」と思っただけのショートステイを目指す。

(通所介護)

1. 事業所内外とのスムーズな情報共有・収集に努め、スピーディーな対応を目指す。
2. チーム力・多職種連携の向上を図り、利用者の「やりたい」を引き出す。
3. 働きがいがあり、安心してケアに集中できる職場作りに努める。
4. 管理栄養士の増員に伴い、「食」の楽しみの提供と栄養面のニーズに対応する。

3. 健康サポート課

1. 新たな加算算定要件を満たす取り組みをする。

(看護)

1. 新たな加算算定要件の実施を通して、医療的支援を深める。

(リハビリテーション)

1. 多職種で協働してリハビリテーションを行えるチームを作る。

(食事サービス)

1. 各種加算算定要件の実施を通して、利用者が健康に過ごすことができるよう栄養改善に努める。
2. 在宅利用者へのセレクトメニューを導入し、「食」の楽しさを提供する。
3. 給食委託業者選定から5年目を迎えるため2018年度内に2019年度からの委託業者選定作業を行い、「食」の楽しさを充実する。

4. 総務課

(総務)

1. 省エネ化補助金を活用した設備改修工事により利用者が快適に生活できる空間をつくと共に環境に配慮しながら経費削減に取り組む。
2. 勤怠管理システム更新により作業の効率化、情報の見える化を推進し、効率的で働きやすい職場環境を構築する。

(就労支援)

1. 地域のボランティア活動を支援する。

5. 診療所

1. 地域のニーズに応える診療所のあり方を研究する。

B. 数値目標

	特 養	短 期	通 所	事業活動収入計
利用定員	120 人	20 人	22 人	
利用者延数	43,362 人	5,986 人	5,491 人	
1日平均利用者数	118.8 人	16.4 人	17.6 人	
稼働率、稼働指数	99.0%	82.0%	80.0%	
稼働日数	365 日	365 日	312 日	
単価 (一人一日当たり)	11,185 円	10,476 円	8,792 円	
介護保険事業収入	485,020 千円	62,710 千円	48,280 千円	603,701 千円
職員数 (常勤換算)	71.64 人	12.07 人	10.33 人	94.04 人

III. 事業種別・規模

- ・介護老人福祉施設 [特別養護老人ホーム] (120 名)
- ・短期入所生活介護および介護予防短期入所生活介護 (20 名)
- ・通所介護事業および介護予防・日常生活支援総合事業 (22 名)
- ・診療所

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	事業名	施設長		事務員		相談員		支専門 介護 援員		看護師		介護士		訓練士 士能		医師		栄養士		調理師		介助員		その他		合計	
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
介護福祉施設	常勤		1	4		1	1	1	1	5	39		1		1		2									54	3
	非常勤								1	9		3		3								9		6		31	0
短期入所	常勤		1			1				1	8															10	1
	非常勤								1	2												1				4	0
通所介護	常勤		1			1					2		2													5	1
	非常勤									2	3											1	1			7	0
合計		0	3	4	0	3	1	1	1	10	0	63	0	6	0	4	0	2	0	0	0	11	0	7	0	111	5

B. 職員組織について

施設管理	施設長 山本隆弘 診療所長 後藤幸一
施設管理会議	山本隆弘、鶴見俊輔、三木義史、湊満子、金谷一作
施設運営会議	山本隆弘、鶴見俊輔、三木義史、湊満子、金谷一作 永田昌代、鈴木完児、鶴見圭秀（オブザーバー 上野貢一）
防火管理者	金谷一作
衛生管理者	加藤義孝
苦情解決委員会	山本隆弘、鶴見俊輔、永田昌代、三木義史、第三者委員（野崎玲子、芝脇和春）
入所判定委員会	山本隆弘、鶴見俊輔、永田昌代、鈴木完児、外部委員（野崎玲子、芝脇和春）

V. 年間事業（行事）計画

区分	内容
全体で行う行事	イースター、夏祭り、敬老会、クリスマス、新年会
各ユニット・事業所の行事	花見、新茶、七夕、敬老会、餅つき、クリスマス、新年会、節分、外出誕生会、家族会等
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断（年1回）、職員健康診断（年2回）、大掃除、防虫消毒
職員研修	新人研修、現任研修、委員会主催研修、ハラスメント研修、施設見学 外部研修
職員会議	年1回：職員全体会議 月1回：施設管理会議、施設運営会議、リーダー会議、ユニット会議 給食会議、安全衛生委員会、優先入所判定委員会 年2回以上：苦情解決委員会
保安防災対策	防災訓練（毎月）[火災想定・地震想定・夜間想定]、防災会議（毎月）
入居者自由参加行事	喫茶室（週4日）、お茶会、書道、民謡踊り、陶芸、生け花、歌の会

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・設備更新：本館・在宅棟の空調・照明更新と屋根・窓の断熱化
（既存建築物省エネ化補助金活用 126,438,000円）
勤怠管理システム更新（1,900,000円）
- ・新規整備：オンライン動画研修システム導入 2階浴室へのリフト浴槽設置（4,000,000円）
診療所エコー検査設備設置（1,000,000円）

総合福祉施設 御殿場十字の園 2018 年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 聖書の「夕暮れになっても光がある」と「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」とを理念として、教会とつながりキリスト教の精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫し、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるように支援する。
2. 聖書のみ言葉『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい』を大切に、朝の礼拝で心を養い、職員が共通認識のもと一体となって、地域と協働しながら、利用者一人一人の人生に共感し、安心とその人らしい主体的な生活を支えるために、心豊かな「福祉の文化の創造」を目指し取り組む。

B. 運営方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、その人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。
2. 多様なニーズに対し断らないワンストップで対応できる拠点施設として、総合的に支援していく。
3. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあう。
4. 安定した経営基盤を構築する。
5. 2025 年を見据えながら施設や地域の課題に向け取り組む。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

<介護保険事業>

1. 介護老人福祉施設

- ①利用者一人ひとりを大切にした介護（特に清潔整容）や5 Sの徹底に取り組む。（業務改善・手順書作成等）
- ②介護の質や専門性を高め合い、利用者の自立支援（特に排泄ケア）やQOLの向上を目指す。

2. 短期入所

- ①重度者や緊急性の高い方を積極的に受け入れ、またニーズに即応し、在宅生活を支援する。
- ②利用者にとって心地よい環境の整備に努め、また、転倒による骨折事故などの未然防止に努める。

3. 通所介護

- ①ごてんばデイ：他職種や部署と協働して利用時間帯を含め多様なニーズに応え、個別支援を図る。
- ②ひだまりデイ：生活リハビリを通して、利用者の「強み」を見出し主体的に暮らし続けられるよう支援する。

4. 訪問介護

- ①風通しの良い職場づくりに努めると共に、職員間の情報の共有化や介護技術の向上を図る。
- ②職員の増員や喀痰吸引従事者の養成、夕方や土日の体制確保を行いニーズに断ることなく対応する。

5. 認知症対応型通所介護

- ①職員の認知症に関する専門性の向上を図り、その人らしい生活の継続ができるよう支援する。
- ②在宅での生活が継続できるよう他部署と連携し、全面的な生活支援に努める。

6. 認知症対応型共同生活介護

- ①最期までその人らしく暮らし続けられるよう、看取りや医療的ケアの充実を図る
- ②地域に根付き、また連携が密になるようボランティアの受け入れや地域行事への参加を促進する。

7. 居宅介護支援

- ①事業所内で事例検討や研修を重ね、支援の均質化や向上を図り、地域に信頼される事業所を目指す。
- ②職員の増員や難病等への支援強化を図り、迅速、丁寧をモットーに断らない支援に努める。

8. 地域包括支援センター

- ①ワンストップの総合相談窓口として充実強化を図るため、市と協働し新たに包括支援センターを開設する。
- ②地域の高齢者問題への早期発見、対応及び地域の課題解決に向け地域包括ケアシステムを構築する。

<障害者総合支援事業>

9. 居宅介護、同行援護

- ①障がいや難病の理解を深め、他職種や他機関と連携し障がい者への介護支援等の充実を図る。
- ②サービス提供の体制を充実し、社会参加を促進する。

10. 短期入所

- ①障がいに関する理解を深め安心して利用できるよう努めるとともに、ニーズに即応する。

11. 地域活動支援センター

- ①一日一善（利用者の善いところ、出来ることを発掘）できるよう関わりを密にし、活動の充実を図る。
- ②事業所内外の研修の充実や他事業所等への見学、意見交換の機会を確保し、資質向上に努める。

12. 移動支援

- ①円滑な外出支援や通院介助等を行い、地域での暮らしを支える。

13. 相談支援

- ①他職種や他機関との情報の共有を徹底し、一人ひとりと向き合い寄り添った支援に努める。
- ②重症心身障がい者の支援や就労支援A型など地域の課題解決に向け新規事業を計画する。

<その他の事業>

14. 診療所

- ①年2回の感染症に関する研修会の開催及び標準予防策の徹底を図り、感染症の流行を防ぐ。
- ②利用者へ積極的にコミュニケーションを取るなどし、状態変化の早期発見等に努め、また、なるべく検死扱いにならないよう、他医療機関との連携を図るなどし、看取りや緊急時の対応強化を図る。
- ③機能訓練：機能的評価の実施や自主的に訓練できる環境整備を行い利用者のADL向上に努める。

15. 介護タクシー事業

- ①各機関、事業所と連携し、障がい者、高齢者の移動支援の充実を図り地域での生活を支える。

16. ボランティアの受け入れ

- ①ニーズに即応するよう調整すると共に、行事等の補助や見守りボランティアを積極的に受け入れする。

17. その他

- ①研修体制等の体系化、施設内階層別研修の継続実施。第5回実践研究ポスターセッションの開催。
- ②利用者や地域の人が楽しむことができるバラ園の整備やボランティアとの「育て方講習会」の開催。
- ③地域の介護力向上に向け、在宅家族介護者教室（絆の会）を継続し、また、新たに介護初心者研修を開催する。
- ④給食：委託栄養士と協働しユニット訪問を重ね、利用者の状態に合わせたより良い食事提供を目指す。
- ⑤職員間で経理、労務、介護保険請求業務等の担当を交替し、事務機能の継続性の確保及び強化を図る。
- ⑥5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底、壁紙の張替えや設備備品の更新を順次行い、清潔感のある居心地の良い施設環境を維持整備する。また、有給取得率の向上など働きやすい職場環境を築く。

B. 数値目標

	特養	短期	通所(通常)	通所 (サテライト)	認知通所	訪問介護	居宅介護支援
利用定員数	107人	11人	35人	10人	12人		
利用者延数	38,875人	3,650人	9,190人	2,322人	3,185人	5,350時間	2,760人
一日平均利用者数	107人	10人	25人	9人	10人	15時間	月233人
稼働率、稼働指数	99.54%	90.91%	71.94%	90.35%	85.62%		
稼働日数	365日	365日	365日	257日	310日	365日	12月
単価(一人一日当たり)	11,174円	15,839円	8,932円	9,009円	13,147円	3,921円	15,161円
収入※	434,405千円	57,811千円	82,082千円	20,920千円	40,348千円	20,980千円	42,389千円
職員数(常勤換算)	66.5人	7.4人	13.7人	2.8人	5.7人	5.5人	6.5人
	地域包括 支援セン ター	地域包括 支援セン ター	障がい者 短期入所	障がい者 居宅介護	同行援護	障がい者 移動支援	障がい者 相談支援
利用定員数		15人					
利用者延数		3,183人	180人	870時間	890時間	300時間	300人
一日平均利用者数		12人	0人	2時間	2時間	1時間	月25人
稼働率、稼働指数		85.00%					
稼働日数	365日	257日	365日	365日	365日	365日	12月
単価(一人一日当たり)		8,074円	22,117円	4,654円	3,454円	2,743円	28,623円
収入※	55,199千円	25,701千円	3,981千円	4,049千円	3,074千円	823千円	8,587千円
職員数(常勤換算)	6.0人	4.1人	0.3人	1.4人	0.1人	0.8人	1.0人
	介護タクシー	グループホーム	事業活動収入計				
利用定員数		18人					
利用者延数	1,890人	6,450人					
一日平均利用者数	5人	18人					
稼働率、稼働指数		98.17%					
稼働日数	365日	365日					
単価(一人一日当たり)	697円	13,790円					
収入※	1,318千円	88,947千円	896,982千円				
職員数(常勤換算)	0.4人	14.8人	136.9人				

※収入は
介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入

III. 事業規模

介護老人福祉施設 (107)、短期入所生活介護 (11)、通所介護 (一般 35, 認知 12, サテライト 10)
認知症対応型共同生活介護 (18)、訪問介護、居宅介護支援、各予防事業、地域包括支援センター、
地域活動支援センター(15)、居宅介護、身障短期、同行援護、相談支援、診療所、介護タクシー

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	事業名	施設長		事務員		相生 談員活		専支介 門員援護		看護 師		介 護士		訓機 練士能		医 師		栄 養士		調 理師		介 助員		そ の他		合 計			
		専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務		
介護福祉施設	常勤	1		4	1	1	1		2	4		35	2	1	1	1		1							1	48	8		
	非常勤									3		12	2			1									4	20	2		
ショートステイ	常勤		1				1					6														6	2		
	非常勤									1		2	2		1										1	4	3		
デイサービス	常勤					2	2					9	1	1													12	3	
	非常勤									1	3	3		1											2	1	6	5	
ホームヘルパー	常勤											3	1														3	1	
	非常勤											13															13	0	
居宅介護支援	常勤							7	1																	7	1		
	非常勤							1																		1	0		
地域包括	常勤					3		3		2																	8	0	
	非常勤																										0	0	
グループホーム	常勤							2		1	8	2															8	5	
	非常勤										6																6	0	
認知症デイ	常勤					1	1					2	1														3	2	
	非常勤										1	3															3	1	
身障地域活動	常勤						1				3	1															3	2	
	非常勤					1					2														1	4	0		
合計		1	1	4	1	8	6	11	5	11	5	107	12	2	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8	2	155	35

B. 職員組織について

施設管理	施設長 宮島克利、診療所長 江藤秀顕
運営会議	宮島克利、杉山 潔、塚本りつ子、高橋雅昭、高木直也、渡邊直美
責任者会議	宮島克利、杉山 潔、塚本りつ子、高橋雅昭、高木直也、渡邊直美、池谷洋子、山本健太、猪越貴史、田代みどり、杉崎由宗、宮地秀明、小野真樹、勝俣和也、勝俣千絵、芹澤保憲、勝又智子、武藤繁生、千田晶子、武山幸浩
防火管理者	施設：芹澤保憲、高橋雅昭（副）、武藤繁生（副）、猪越貴史（副） グループホーム：高橋直輝
苦情解決委員会 (受付担当者)	宮島克利、塚本りつ子、猪越貴史、田代みどり、小野真樹、勝又智子、武藤繁生、杉崎由宗、勝俣和也、勝俣千絵、芹澤保憲、宮地秀明、杉山潔、高橋雅昭、武山幸浩
衛生管理者	渡邊直美
苦情解決第三者	小松 保、中垣内紀子

V. 年間事業(行事)計画

区分	内 容
全体で行う行事	イースター、夕涼み会、敬老の日、クリスマス、召天者記念礼拝(施設)
施設ユニットの行事	花見、遠足、七夕、紅葉狩り、忘年会、もちつき(階)、新年会、節分、外出、誕生会 寿司パーティー、よりあい、家族懇談会等
通所介護の行事	花見、遠足、流しそうめん、バーベキュー、紅葉狩り、新年会、そば打ち、誕生会等
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断(6月)、職員健康診断(6, 11月)、インフルエンザ予防接種(12月)
職員内部研修	階層別内部研修、感染症対策、接遇マナー、虐待防止、認知症対応、他別紙研修計画に沿う
職員会議	運営会議(月2回)、責任者会議(月1回)、寮棟会議(毎月)、ユニット会議(月1回)、リスク マネジメント委員会(月1回)、サービス質向上委員会(月1回)
保安防災対策	防災会議(毎月)、防災訓練(毎月)
利用者自由参加行事	衣類販売、習字教室、陶芸教室、花の友の会、ふれあい広場、

VI. その他(修繕・固定資産購入等)

- ・1階、2階の特殊浴槽の更新(5,500,000円)
- ・居室壁紙の張替え、居室のれんの交換
- ・地域包括支援センター新規開設(建築、設備、15,000,000円)
- ・送迎車両等の更新2台(通所介護)フト車両1台3,000,000円リース予定、普通車1台1,800,000円)
- ・身障天井フトの更新(100万円)
- ・非常用発電機の更新2台(非常用電源、スプリンクラー用、2,000,000円)
- ・外壁改修工事の検討 ・ひだまりデイの移転、新規事業の検討

軽費老人ホーム（ケアハウス）御殿場アドナイ館 2018 年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 聖書の「夕暮れになっても光がある」と「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」とを理念として、教会とつながりキリスト教の精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるように支援する。
2. 聖書のみ言葉から「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお『主の山に備えあり』と言う。」創世記22章14節。主が備えてくださったこの施設に住む者が、安心して心豊かに生活が出来るように、職員が朝の礼拝で心を養う。そして、入居者のきめ細かな生活支援に努める。

B. 運営方針

1. 入居者が明るく楽しく心豊かに生活できるよう支援する。
2. 入居者の余暇の充実や入居者同士の互助を促進し生活の質の向上を目指す。
3. 職員のソーシャルワーク実践力を高め、入居者の望む暮らしを支えるとともに、地域の様々な生活困窮者への支援に努める。
4. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあう。
5. 入居希望者の増加を図り健全な経営に努める。

II. 事業計画

A. 事業目標(計画)

1. 利用者の健康で安心した暮らしに向け努める。
 - 1) 健康体操教室を月2回、散歩会を月1回は継続的に開催する。
 - 2) 要介護者等への日常生活支援サービスの充実を図る。
 - 3) 低所得者（生活困窮者）の受入れや生活の継続性のための仕組み等を築く。
 - 4) 契約当時の家族や保証人等の高齢化に対し、再度、緊急時の対応や保証人の確認をする。
2. 生活の質を高めます。
 - 1) カラオケクラブ、茶話会（お菓子作り等）、気楽会（外食等）、春秋遠足、毎月の親睦会の充実を図り、楽しみながら入居者同士の交流の促進及び、体力維持や心の平安に繋げる。
 - 2) 買い物などの送迎サービスを週3回程度定期的に行う。
 - 3) 利用者同士の助け合いやボランティア活動を尊重し互助の関係を促進していく。
3. 入居待機者の確保に努めます。
 - 1) 御殿場十字の園ホームページに、ケアハウス入居者・待機者募集と施設案内を掲載する。
 - 2) 御殿場十字の園機関誌に、ケアハウス入居者・待機者募集を掲載する。
 - 3) 待機者に対し定期的に状況確認や現在の待機状況等についてお知らせをしていく。
 - 4) 市内医療機関や介護事業所及び県外へもパンフレット等を送付する。

B. 数値目標

	ケアハウス	
利用定員数	30人	
利用者延数	10,950人	
一日平均利用者数	30人	
稼働率、稼働指数	100.0%	
稼働日数	365日	
単価(一人一日当たり)	5,938円	事業活動収入計
老人福祉事業収入	65,020千円	65,232千円
職員数(常勤換算)	3.4人	

Ⅲ. 事業規模

ケアハウス (定員; 30名)

Ⅳ. 職員について

A. 配置計画

職種区分		施設管理 施 設 長 者	事務員	生 活 相 談 員	支 援 員	専 門 護 士	看 護 師	介 護 士	機 能 訓 練 士	医 師	栄 養 士	調 理 師	介 助 員	そ の 他	合 計
事業名		専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務
ケアハウス	常 勤	1	1	1				1				1			2
	非 常 勤							1							0
合 計		0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2

B. 職員組織について

施 設 管 理	施設長 宮島克利
施 設 運 営 会 議	宮島克利、杉山 潔、塚本りつ子、高橋雅昭、高木直也、渡邊直美
職 員 会 議	宮島克利、高橋雅昭、武山幸浩、千田晶子、杉山潔 (看護師)
防 火 管 理 者	芹澤保憲、高橋雅昭 (副)、武藤繁生 (副)、猪越貴史 (副)
苦情解決委員会 (受付担当者)	宮島克利、塚本りつ子、猪越貴史、田代みどり、小野真樹、勝又智子、武藤繁生、杉崎由宗、勝保和也、室伏千鶴、芹澤保憲、宮地秀明、杉山潔、高橋雅昭、武山幸浩
第三者委員	小松 保、中垣内 紀子

Ⅴ. 年間事業 (行事) 計画

区 分	内 容
全体で行う行事	花見、夕涼み会、園遊会、クリスマス会、新年挨拶会、餅つき大会
保健・医療・衛生管理	6月入居者検診 6月、10月職員検診 11月利用者・12月職員インフルエンザ予防接種
職員内部研修	施設見学研修、ケアハウス相談員研修
職 員 会 議	職員会議月1回 運営会議月2回
	責任者会議月1回
保安防災対策	防災担当者会議 リスクマネジメント委員会 防災訓練 各月1回
自由参加行事	散歩会 (毎月)、気楽会 (隔月)、カラオケクラブ (毎月)、茶話会 (隔月)、親睦会 (毎月) 春秋遠足

Ⅵ. その他 (修繕・固定資産購入等)

- ・ケアハウス正面玄関屋根防水工事
- ・自動検針機バッテリー交換

特別養護老人ホーム 伊豆高原十字の園 2018年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 法人の理念『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります』を理解、継承していくために、礼拝奉仕者などと協力し、理念の浸透を期する。
2. 施設の理念『あなたのために、そしてあなたとともに』に沿って、施設入居者及び地域住民のために、そしてともに運営することを心がける。

B. 運営方針

1. 経営・運営への取り組み；職員一人ひとりに経営を意識させるため、適正な人員配置、業務手順を検証し、健全な経営、運営に努力する。
2. 安心安全への取り組み；利用者の安心安全で快適な生活を守ることに加え、職員の職場環境を整えるようリスクマネジメントに取り組む。
3. 人材確保への取り組み；電子媒体などで施設のPRに努める他、辞めない職場作りを実践するため、ハラスメントを無くし、良好なコミュニケーションが継続的に取れるように努める。
4. 地域に向けた取り組み；対島地域ふるさと協議会と連携し、地域住民と共に地域包括ケアシステムを具体的に推進し、地域コミュニティの成長を目指します。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 介護老人福祉施設
 - 1) 新しく導入する介護ソフトを活用し、より密度の濃い情報を共有することで、入居者の生活が安全安心できるサービスを提供していく。
 - 2) 入居者の最晩年の時に寄り添い、その人の意向に沿った医療を行い、その人らしい暮らしを支援していく。
 - 3) 入居利用者及び家族のライフスタイルを尊重し、各部署と連携し個別の意向や希望に沿ったサービス提供の実現を目指します。
 - 4) 「美味しさ」を追求した楽しみある食事を提供し、利用者の生きる力・笑顔溢れる生活を支える。平和の杜職員とも連携をしていく。
 - 5) 業務の効率化を図り、他部署、他事業所との連携を強化し、経営の健全化を目指す。
2. 地域包括支援センター
地域包括ケアを目指し、高齢者が安心して暮らせる町づくりのために、医療・福祉・保健の連携を図り地域の支援体制の構築に努める。
3. 居宅介護支援事業所
 - 1) 地域ケアシステムを推進し医療、他職種との連携を強化して重度化の防止や充実した生活を送れるよう質の高いサービスを提供する。
 - 2) 多角的な部分から相談業務が行えるよう、積極的に研修へ参加し、質の向上を目指す。
4. 短期入所生活介護
利用者及び家族に、安全で安心して利用できる社交場として、満足度の高い事業所を目指す。
5. 通所介護事業
個別処遇の徹底により、利用者・家族に安心・満足していただくように、専門職として質の高いサービスを提供する。
6. 介護予防事業
職員の質を高め、地域に密着した介護予防事業を目指し、教室を中心にサロンや居場所づくりを更に展開する。また総合事業サービスA開設の準備を進めていきたい。

7. 訪問介護事業

利用者の変化に気づく力を付けるために連絡会や他事業所との連携を十分に持つ。また、確実に誠実なサービスを提供し、信頼される事業所を目指す。

8. 移送サービス事業

安心・安全を第一に信頼関係を育み、真心こめて地域の高齢者・障害者の外出や生甲斐を支援する。関係機関への営業により利用率を上げる。

9. 配食サービス事業

安全・安心・美味しく・楽しく・栄養のある弁当作りを行い、食の確保・笑顔での安否確認にて在宅生活の継続の支えとなる。

B. 数値目標

事業名	介護老福施設	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅（伊豆）
利用定員数	90 人	10 人	27 人	— 人	— 人
利用者延数	32,521 人	3,650 人	7,700 人	20,075 時間	1,422 件
1日平均利用者数	89.1 人	10 人	25 人	55 時間	—
稼働率、稼働指数	99 %	100 %	92.5 %	—	—
稼働日数	365 日	365 日	308 日	365 日	254 日
単価 (一日一人当たり)	14,006 円	13,131 円	8,862 円	3,188 円	13,368 円
介護保険事業収入・障害福祉サービス等事業収入	455,500 千円	47,930 千円	68,240 千円	64,000 千円	19,010 千円
職員数 (常勤換算)	67 人	7.1 人	11.1 人	13.7 人	3.2 人

事業名	地域包括	介護タクシー	介護予防	配食	居宅（一碧）
利用定員数	—	—	—	—	—
利用者延数	—	1,500 件	—	—	1,422 件
1日平均利用者数	—	3 人	—	20 食	—
稼働率、稼働指数	—	—	—	—	—
稼働日数	254 日	254 日	254 日	254 日	254 日
単価 (一日一人当たり)	—	1,133 円	—	—	13,361 円
介護保険事業収入・障害福祉サービス等事業収入	34,300 千円	1,700 千円	6,500 千円	3,720 千円	19,000 千円
職員数 (常勤換算)	6 人	0.5 人	1.8 人	0.6 人	3.2 人
合計	事業活動収入計	713,231千円	職員数（常勤換算）		114.2 人

III. 事業種別・規模

介護老人福祉施設（定員；90名）、短期入所生活介護事業（定員；10名）、通所介護事業（定員；27名）、訪問介護事業、居宅介護支援事業、配食サービス事業、地域包括支援センター事業、障害福祉サービス事業（居宅介護、重度訪問介護、移動支援）、介護タクシー事業、介護予防事業（一般、通所短期C型、サロン）

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	事業名	施設長		職事員務		相生談員活		専支介門員援護		職看員護		職介員護		指訓機導員練能		医師		栄管理士・員理		職調員理		介助員		その他		合計		
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	
介護福祉施設	常勤	1		4		1		1	1	4		33	8			2		1		3		5		3		48	9	
	非常勤			2						1		5	4							7				5		3		25
ショートステイ	常勤		1		1		1				4		8						1		3						0	19
	非常勤									1		3				2					7		5		3		0	21
デイサービス	常勤		1		1	1	3			1		3	1														5	6
	非常勤									1		5		1											1		8	0
ホームヘルパー	常勤		1		1							5															5	2
	非常勤											25															25	0
居宅介護支援	常勤		1		1			6																			6	2
	非常勤																										0	0
地域包括支援センター	常勤		1			3		2		1																	6	1
	非常勤																										0	0
介護予防事業	常勤		1		1									1													0	3
	非常勤				1					2	1			1													2	3
合計		1	6	6	6	5	4	9	1	10	6	76	24	1	2	2	2	1	1	10	10	5	5	4	3	130	70	

B. 職員組織について

施設管理会議	小川秀幸 鈴木貴雅 西島一恵 岩本佑太 重永仁美
施設運営会議	鈴木貴雅 岩本佑太 西島一恵 山田厚子 富岡良太 松崎和博 磯崎亮 平野淳一 大川智加枝
在宅運営会議	重永仁美 土屋康美 植木三和子 杉山勢津子 三好かほり 西島一恵 平野淳一
防火管理者	磯崎亮
衛生管理者	多田高穂
優先入所検討委員会	小川秀幸 岩本佑太 磯崎亮 山田厚子 富岡良太 松崎和博 上田彰 (第三者) 看護職員
苦情解決第三者委員連絡会	小川秀幸 重永仁美 岩本佑太 鈴木貴雅 西島一恵 磯崎亮 第三者委員：上田彰 (伊東教会牧師) 相磯英之 (市社協職員)

V. 年間事業 (行事) 計画

区分	内容
全体で行う行事	地域交流祭、クリスマス礼拝、十字の園秋まつり、召天者を偲ぶ会、礼拝
施設ユニット行事	お花見、端午の節句、七夕、敬老祝会、芋煮会、クリスマス、もちつき、新年会、節分、雛祭り、誕生会、外出・レクドライブ、お月見、ミニコンサート
通所介護の行事	お花見、七夕、敬老祝会、お月見、運動会、芋煮会、クリスマス、新年会、忘年会、節分、ひな祭り、散策、誕生会、サークル (絵画・園芸・手芸・料理・生け花)
保健・医療・衛生管理	入居者健康診断 (年1回)、職員健康診断、防虫消毒、安全衛生委員会 (毎月)
職員内部研修	全体勉強会、在宅部門合同勉強会、部署勉強会
職員会議	全体会議 (年1回以上)、施設管理会議 (月1回以上)、施設運営会議 (月1回)、在宅運営会議 (月1回)、部署会議 (月1回以上)、サービス担当者会議 (随時)、事業所会議 (月1回)、苦情解決第三者委員連絡会 (年4回)、優先入所検討委員会 (年2回以上)
保安防災対策	防災訓練 [火災・地震・夜間想定] (毎月)、防災委員会 (年2回)
自由参加行事	喫茶麦の会、生け花、書道サークル、出張売店、衣類販売、読み聞かせ、おやつサークル
地域化推進活動	ボランティア懇談会、家族懇談会、対島地域ふるさと協議会

VI. 固定資産購入、修繕等

- 1) デイ送迎車両 2000 ccクラス (3,000,000円、リース予定)
- 2) 低床ベッド5台 (1,200,000円)、移動式リフト

軽費老人ホーム（ケアハウス）アドナイ館 2018年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

聖句「夕暮れになっても光がある」を基盤として、定款第1条の「キリスト教の精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう」支援を行う。ケアハウスは「一人ひとりがその人らしく生活し自立心を損なわない支援」を目指し、デイサービスは「共に生き、信頼関係を大切に楽しく過ごせる空間と、自立支援に基づいた安全で確実な介護」の提供を行う。

B. 運営方針

社会環境が変化する中で、ケアハウス、デイサービスの役割を検証し地域社会に貢献する。

1. ケアハウスは、入所者一人ひとりの自分らしい暮らしを大切に、安全で安心できる生活の支援を行う。
2. デイサービスは、利用者の在宅生活を見据え、サービス内容の充実を図り利用者・家族を支援する。
3. 職員の資質向上を目指し研修内容の充実、メンタルヘルスを含めた職場環境の整備を図る。
4. 西部地区3施設の一体的な取り組み（経営管理委員会等）、及び地域との良好な関係を築く。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 軽費老人ホーム（ケアハウス）

- ・中長期計画に基づき、入居者の快適な住環境の整備を継続して図って行く。
- ・入居者の生活状況、健康情報についての記録を整理し、援助計画に生かして行く。
- ・物品管理を明確化し、無駄なく効率的な職場環境を目指して行く。

2. 通所介護（デイサービス）

- ・業務の効率化、見直しの取り組み、設備・備品の更新を行い、職場環境の改善を図って行く。
- ・デイ利用者・家族・地域の関わりを大切に、企画（家族会、区民公開講座等）を行う。
- ・利用者一人ひとりに合わせて、慣れ親しんだ地域で利用者・家族の希望する生活の支援を行う。

3. 調理

- ・「安全で満足のいく食事の提供」を行う。
- ・栄養管理の徹底と向上に努め、HACCP義務化に向けた質の向上を行う。
- ・栄養管理を行い、可能な範囲での個別対応の拡充を図る。

B. 数値目標

	ケアハウス	通所	事業活動収入計
利用定員	50人	30人	
利用者延数	18,250人	7,344人	
1日平均利用者数	50人	24人	
稼働率、稼働指数	100%	80.0%	
稼働日数	365日	306日	
単価（一人一日当）	4,947円	9,258円	
介護保険事業収入・ 老人福祉事業収入	90,287千円	67,993千円	164,552千円
職員数（常勤換算）	10.99人	11.98人	22.97人

III. 事業種別・規模

軽費老人ホーム（ケアハウス）50名、通所介護30名

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	施設長	事務職員		生相談員		専門介護員		看護員		訓練士		医師		栄養士		調理員		介助員		その他		合計					
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務				
ケアハウス	常勤	1		1				1	1					1		4						8	2				
	非常勤							2								1					4	7	0				
デイサービス	常勤				3			3	3	1												4	6				
	非常勤						2	2	1						1						5	11	0				
合計		1	0	0	1	1	3	0	0	2	0	8	4	2	0	0	0	1	0	6	0	0	0	9	0	30	8

B. 職員組織について

施設管理者	施設長 上野貢一
施設運営会議	上野貢一、河出雅代、奥村敦司、安田匡豊
防火管理者	豊田くみ子（河出雅代）、原田真佑（安田匡豊）、奥村敦司
衛生推進者	豊田くみ子
食品衛生責任者	奥村敦司
苦情解決委員会	上野貢一、河出雅代、赤池克始子、奥村敦司、安田匡豊 第三者委員（野崎玲子、芝脇和春）

V. 年間事業（行事）計画

区分	内容
全体で行う行事	朝の礼拝、納涼祭、希望の日、クリストファーこども園と交流会、入居者勉強会、クリスマス会、餅つき、バス旅行（春）、食事会（秋）、4月全員写真撮影
通所介護の行事	新年会、節句、納涼祭、敬老の日、クリスマス会、個別レク、誕生会、書道、茶道、運動会、音楽・園芸・アクティビティ、（リハビリ・口腔ケア等）
保健・医療・衛生管理	健康診断、インフルエンザ予防接種、メガネ相談、医師診察日、防虫消毒、福祉相談
職員会議	全体会議(月1回)、管理運営会議(月1回)、給食・デイ・ハウス部門会議(月1回)
	苦情解決委員会(毎月)、勉強会(月1回)、芳樹会役員会・総会（各年2回）
防災訓練	毎月「火災想定・地震想定・夜間訓練」、防災委員会(年2回)、防災機器点検(年2回)
機関紙編集会議	隔月（上野、河出、奥村、安田、豊田） 入居者編集委員（斎藤一彦）
入居者参加教室	カラオケクラブ、フラワー教室、映画会、読書会、聖書研究会、筋力トレーニング、レコード鑑賞

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・デイ浴室改修工事（3,000,000円）
- ・デイ送迎用車両の更新（リース予定、450,000円/年）
- ・電解水生成装置の購入

特別養護老人ホーム 松崎十字の園 2018年度事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 社会福祉法人十字の園の理念「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」について職員一人ひとりが理念を今あるべき姿・成すべき行動への問い掛け、また励まし、慰めとなるように心に常に留めていきます。
2. 月曜日から金曜日の朝の礼拝もって一日を始め、聖書の御言葉に親しみを持てるようにします。
キリスト教施設の礼拝の意味とは。
 - ・目に見えないおおいなるもの（神様）に生かされ、励まされている事を知る事。
 - ・聖書に書かれているイエス・キリストの示された愛の業（福祉）を知りそれに倣う思いを持つ事。
 - ・お祈りをもって一日を始めそして自らも祈られている事を知り、一人ではない事に感謝する事。
 - ・御言葉をみんなで聞き、讃美歌をみんなで歌い、心一つにして仕事につく喜びを知る事。
 - ・聖書の御言葉を自分への問いかけとして受け止めて自らを振り返り変えられる思いを持つ事。

B. 運営方針 みんなが笑っていただける施設を目指します。（中期計画テーマ）

働きやすい施設へパートII（2018年度テーマ）

育てる力をつけます。

- ・業務の見直しと職員それぞれの役割を確認し、丁寧な仕事を行います。
- ・法人の評価システムから個人の自己研修目標を立案し、それに向けて業務の質を高めていきます。

安心安全な運営を目指します。

- ・未改修の建物・設備に対して計画的に対応をしていきます。

健全な経営を考えます。

- ・事業の数値目標を意識したサービスを提供します。
- ・サービス事業単位で予算管理が行えるように経営意識を高めます。

利用者の生活を丁寧に支援します。

- ・利用者の命の営みを個別支援計画に反映し生活の充実を図ります。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 介護老人福祉施設 松崎十字の園

(1) 介護

1. 笑顔、言葉使い、チームワークの3本柱を中心に基本的な介護のあり方を見直し標準化を行う。
2. 働きやすい環境を職員自らが考え実践する。
3. 認知症高齢者に対するケアの基本を習得した職員による勉強会を通し、実践に結び付ける。

(2) 看護

1. 急変するリスクがある方の入所が増え、疾病や認知症状の勉強、日々の生活援助を通して残された人生を他職種連携と家族を交えた支援を行う。看取り介護への取り組みは継続する。
2. 記録の共有化が出来ているので、それを活用し、報告、連絡、相談等の円滑化を図り、家族等を通して生活歴、趣味等多方面から利用者の全体像を捉えるために情報を得、支援に結び付ける。

(3) 相談員

1. 入所退所の業務を円滑に進めて退所から入所までの期間を3～5日になるよう努力する。
2. 入院等の空ベッドを短期相談員と連携をとり有効に活用する。
3. 施設の認知度を高め、入所申込者の確保をする。

(4) 施設介護支援専門員

1. 重度化して入所される利用者の望みを受け止めつつ、支援計画書の作成に努める。
2. 介護職員と共に行事へ参加や地域に出る機会を増やし、施設内だけで完結した生活にならないようにする。

3. 状態の変化が見られた際は、多職種と統一した支援が出来るように速やかに会議を開き進める。

(5) 給食

1. 安心・安全な食事を提供する。(衛生講習会への参加、施設内で手洗い・食中毒の勉強会を実施、職場内での声掛け・確認を徹底する)
2. 厨房主催のイベントの実施することにより利用者に関わる機会を増やす。

(6) 事務

1. 将来の会計処理の統合化に向けて処理業務の見直しを図る。
2. サービス事業単位で予算管理が行える環境作りをする。

2. 短期入所生活介護事業

1. 家族とのコミュニケーションの強化を図り、利用の受け入れから退所まで丁寧な対応を行っていく。
2. 利用者情報の共有を図り、事故発生件数の減少を目指す。

3. 通所介護事業

1. 要望が多いリハビリについて、体力測定や、認知症テストの結果をもとに支援計画書へ反映し個別の生活リハビリを実施する。

4. 訪問介護事業

1. 家族、ケアマネ、関係機関と密に連絡を取り、安心安全に在宅生活を送れる様に支援する。

5. 居宅介護支援事業

1. 各種機関と連携をとり、利用者の在宅での生活が充実するよう支援する。
2. 施設内の在宅部門と連携を取り、在宅部門のサービス向上を目指す。

B. 数値目標

	特養	短期	通所
利用定員	50人	9人	25人
利用者延べ数	18,068人	3,942人	5,000人
一日平均利用者数	50人	9人	20.0
稼働率・稼働指数	99%	120%	80%
稼働日数	365日	365日	250日
単価(一人一日当たり)	11,286円	11,200円	8,904円
介護保険事業収入(千円)	203,910	44,150	44,520
職員数(常勤換算)	28人(介護・看護職員)		6.8人

	訪問	居宅	事業活動収入計	
利用定員	—	—		
利用者延べ数	2,190時間	—		
一日平均利用者数	6.0時間	—		
稼働率・稼働指数	—	—		
稼働日数	365日	120件		
単価(一人一日当たり)	4,155円/時	12,500		
介護保険事業収入(千円)	9,100	1,500		*308,873
職員数(常勤換算)	2.5人	1人		42.3人

*職員出向 6,880千円を含む。

III. 事業規模

介護老人福祉施設(50名)、短期入所生活介護(9名)、通所介護事業(25名)、訪問介護事業、居宅介護支援事業所

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分	事業名	施設長		事務員		相生談員活		援介専門支		看護師		介護士		訓練士能		医師		栄養士		調理師		介助員		その他		合計	
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
介護福祉施設	常勤	1		1		1		1		3		22		1				1		2						33	0
	非常勤			1				1				5				1				6		2		3		18	1
ショートステイ	常勤		1			1						5														1	6
	非常勤											1														0	1
デイサービス	常勤		1			1						3														4	1
	非常勤								2			3														5	0
ホームヘルパー	常勤											2														2	0
	非常勤											1														1	0
居宅介護支援	常勤							1																		1	0
	非常勤																									0	0
合計		1	2	2	0	3	0	2	0	6	0	36	6	1	0	0	1	1	0	8	0	2	0	3	0	65	9

B. 職員組織について

施設管理	施設長 三條洋二
運営会議	三條洋二、関 弘美、佐藤秀子、秋元 徹
主任会議	三條洋二、関 弘美、佐藤秀子、秋元 徹、山本貴一、島倉とよみ、渡邊直明 鈴木清彦、中川修大、渡邊治朗、石田良、佐々木正章、(菊池仁美)
防火管理者	山本貴一
衛生管理者	鈴木敏江
苦情解決委員会	三條洋二、関 弘美、佐藤秀子、秋元 徹、第三者委員：江口 充、金刺幸春
特養入所判定会	三條洋二、関 弘美、島倉とよみ、三宅美恵子、山本貴一、鈴木清彦 第三者委員：江口 充

V. 年間事業(行事)計画

区分	内容
全体で行う行事	敬老会、クリスマス祝会、朝礼拝(月～金)
各事業単位の行事	誕生会、レクドライブ、お食事会、買い物外出、忘年会、他
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断(年1回)、月毎の掃除、防虫消毒(業者に委託) 職員の健康診断(年2回)、健康管理(11～3月まで体温チェック)
職員内部研修	新人研修、職員勉強会、施設見学、他施設実習、web動画を活用した研修 ハラスメントについての講座
職員会議	各部署会議(毎月)、ユニット会議(毎月)、ユニットリーダー会議(毎月)、リ スクマネージメント委員会(毎月)、入所判定委員会(適宜)、各種委員会会議
保安防災対策	防災訓練(総合訓練、検証訓練)[年12回内夜間想定4回]地震火災総合訓練 (年1回)、防災会議(毎月)

VI. その他(修繕・固定資産備品購入予定)

改修工事 施設全体・ユニット間の壁を取り去る。・天井の雨漏れのシミの改修・記録システムのカスタマイズ
・ベッドキャスター交換 **高齢入所**・バスストレッチャー故障改修・汚物室の改修・テーブルの改修
高齢短期・手すり設置 **デイ**・普通浴の水道修理 ・中間浴槽リフト修理・衣類乾燥機修理

購入 施設全体・空調の省エネの管理装置(パルコ)設置 ・職員の紙ベースの個人データの整理システムの導入
・給湯ボイラー交換1台 自家発電用バッテリー **高齢入所** ・アマノシャトルバス ・衣類乾燥機 ・低床ベ
ッド2台 ・車椅子2台 ・リクライニング車椅子1台 **短期** ・軽車両(車椅子使用)・低床ベッド2台 ・
車椅子×2台 **デイ**・リハビリ機材・認知症対応の機材 ・送迎車1台・リフトバッテリー・エアマット ・
ブレーキ付車椅子 **ヘルパー** ・軽自動車1台 **居宅** ・連絡用携帯電話

障害者支援施設 オリーブ 2018 年度事業計画

就労支援継続B型 ワークショップ マナ

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 社会福祉法人十字の園の理念「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」について職員一人ひとりが理念を今あるべき姿・成すべき行動への問い掛け、また励まし、慰めとなるように心に常に留めていきます。
2. 月曜日から金曜日の朝の礼拝をもって一日を始め、聖書の御言葉に親しみを持てるようにします。
キリスト教施設の礼拝の意味とは。
 - ・目に見えないおおいなるもの（神様）に生かされ、励まされている事を知る事。
 - ・聖書に書かれているイエス・キリストの示された愛の業（福祉）を知りそれに倣う思いを持つ事。
 - ・お祈りをもって一日を始めそして自らも祈られている事を知り、一人ではない事に感謝する事。
 - ・御言葉をみんなで聞き、讃美歌をみんなで歌い、心を一つにして仕事につく喜びを知る事。
 - ・聖書の御言葉を自分への問いかけとして受け止めて自らを振り返り変えられる思いを持つ事。

B. 運営方針 みんなが笑っていただける施設を目指します。（中期計画テーマ）

働きやすい施設へパートII（2018年度テーマ）

育てる力をつけます。

- ・業務の見直しと職員それぞれの役割を確認し、丁寧な仕事を行います。
- ・法人の評価システムから個人の自己研修目標を立案し、それに向けて業務の質を高めていきます。

安心安全な運営を目指します。

- ・未改修の建物・設備に対して計画的に対応をしていきます。

健全な経営を考えます。

- ・事業の数値目標を意識したサービスを提供します。
- ・サービス事業単位で予算管理が行えるように経営意識を高めます。

利用者の生活を丁寧に支援します。

- ・利用者の命の営みを個別支援計画に反映し生活の充実を図ります。

II. 事業計画

A. 事業目標（計画）

1. 障害者支援施設 オリーブ

(1) 施設支援

1. 2018 年度も引き続き「みんなの笑顔のために」を目標に掲げ、今年度同様、利用者の生活の質の向上に努める。
2. それぞれの障害の特性や病気等についての知識を深める。
3. 隣接地の有効活用を日中活動の場として考えていきます。
4. 入院者 2 名（2017 年度）があり、体調等の変化の早期発見に努め、看護と連携し重度化を防ぐ。

(2) 生活介護

1. 新規利用者の把握と確保に努める。（稼働率UP）
2. 遠方の利用者の送迎について時間・職員配置等の検討を進める。

(2) 看護

1. 身体的低下は高齢者だけでなく年齢の若いオリーブの利用者のも現れ、そのための障害や病気の理解や、それぞれの人持つ障害の理解を深め、家族からの情報や思いを受け止め、日常生活が送れる様にサポートを行う。

(3) 機能訓練

1. 個々の障がいと加齢に伴う機能低下を考えた訓練内容を立案し、個別に支援を実施する。

(4) 給食

1. 安心・安全な食事を提供する。(衛生講習会への参加、施設内で手洗い・食中毒の勉強会を実施、職場内での声掛け・確認を徹底する)
2. 厨房主催のイベントの実施することにより利用者に関わる機会を増やす。

2. 身障短期入所事業

1. 障害者相談支援との連携の中で新規利用者の把握と確保を図る。
2. 長期利用者の一時帰宅等や利用者本人の思いを受け止め支援を行う。

3. 障害者相談支援

1. 担当エリアが広いため、情報機器を活用し効率の良い動きが出来るように環境を整え支援を考える。

4. 障害者ヘルパー事業

1. 「高齢者」と「障がい者」の併用の訪問のため、空いている時間に訪問を調整している状況だが、相談支援員と密に連絡をとり丁寧に対応する。

5. 就労継続支援B型事業所(ワークショップマナ)

1. 今までの支援のあり方を継承しつつ、利用者が行くのが楽しいと感じられる作業所にする。
2. 職員は、職業支援のスキルアップを図り利用者に応じた対応をする。
3. 依頼のあった注文は拒まず、対応できるよう考え販路拡大をする。
4. 利用したいという利用者は拒まず、支援の方法を考え稼働率の増加を図る。

B. 数値目標

	支援施設	生活介護	短期
利用定員	22人	27人	2人
利用者延べ数	7,950人	5,541人	693人
一日平均利用者数	21.8人	20.6人	1.9人
稼働率・稼働指数	99.0%	76.3%	95.0%
稼働日数	365日	269日	365日
単価(一人一日当たり)	5,899円	11,501円	10,506円
障害福祉サービス等事業収入	46,900千円	63,730千円	7,281千円
職員数(常勤換算)	11.3人(支援・看護職員他)		

	訪問	相談	就労支援
利用定員	—	—	20人
利用者延べ数	440時間	1600件	5,380人
一日平均利用者数	1.2時間	—	20.7人
稼働率・稼働指数	—	—	103%
稼働日数	365日	269日	260日
単価(一人一日当たり)	3,295円	7,537円	8,300円
障害福祉サービス等事業収入	1,450千円	12,060千円	44,650千円
就労支援事業収入	—	—	11,110千円
職員数(常勤換算)	2.5人(兼務)	2.5人	7.7人

	合計
事業活動収入計	188,047千円※
職員数(常勤換算)	24人

※相談委託費 400万円含む

Ⅲ. 事業規模

障害者支援施設 (22 名)、生活介護 (27 名)、身障短期入所生活介護事業 (2 名)、障害者相談支援事業所
障害者ヘルパー事業、就労継続支援 B 型事業所 (20 名)

Ⅳ. 職員について

A. 配置計画

職種区分	施設長	事務員		責任者		看護師		指導員		生活支援員		訓練士		医師		栄養士		調理師		介助員		その他		合計			
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務		
障害者支援施設	常勤	1	1	1	1	1	1			8	1			1	1	3								13	5		
	非常勤									2					1	5				1		2		2	9		
身障ショートステイ	常勤	1			1						8													0	10		
	非常勤									2														0	2		
障害者相談支援事業所	常勤	1						1	1															1	2		
	非常勤							1																1	0		
障害者ヘルパー事業所	常勤									2															0	2	
	非常勤									1															0	1	
就労継続支援B型	常勤	1		1				1	1	4															6	2	
	非常勤							1		2															3	0	
合計		0	4	1	0	2	1	1	0	4	2	16	13	1	0	0	1	1	1	0	8	0	1	0	2	26	33

B. 職員組織について

施設管理	施設長 三條洋二
運営会議	三條洋二、関 弘美、佐藤秀子、秋元 徹
施設主任会議	三條洋二、関 弘美、佐藤秀子、秋元 徹、島倉とよみ、鈴木清彦、中川修大、渡邊治朗、山本貴一、佐々木正章、石田 良、渡邊直明、(菊池仁美)
防火管理者	山本貴一
衛生管理者	鈴木敏江
苦情解決委員会	三條洋二、佐藤秀子、関 弘美、秋元 徹 (第三者委員：江口 充、金刺幸春)
身障入所判定会	三條洋二、島倉とよみ、佐藤秀子、秋元 徹、石田 良

V. 年間事業 (行事) 計画

区分	内容
全体で行う行事	クリスマス祝会、朝礼拝 (月～金)
各事業単位の行事	レクドライブ、お食事会、買い物外出、忘年会、障害者スポーツ大会、他
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断 (年 1 回)、月毎の掃除、防虫消毒 (業者に委託) 職員の健康診断 (年 2 回)、健康管理 (11～3 月まで体温チェック)
職員内部研修	新人研修、職員勉強会、施設見学、他施設実習、web 動画を活用した研修 ハラスメントについての講座
職員会議	オリブ会議 (毎月)、マナ会議 (毎月) リスクマネジメント委員会 (毎月)、入所判定委員会 (適宜)、各種委員会会議
保安防災対策	防災訓練 (総合訓練、検証訓練) [年 12 回内夜間想定 4 回] 地震火災総合訓練 (年 1 回)、防災会議 (毎月)

Ⅵ. その他 (修繕・固定資産購入等)

改修 施設全体・天井の雨漏れのシミの改修・記録システムのカスタマイズ・ベッドキャスター交換 **オリブ**・浴室の照明 浴槽の移動修理 **マナ**・洋式トイレ化 **看護**・水道蛇口根本の水漏れ壁改修 **給食**・食食用台車のヒビ割れ補修

購入 **オリブ**・床リフト用バッテリー・床リフト用スリング・free - WiFi 化・洗濯乾燥機 1 台・L 字バーベッド 柵 **相談**・ポータブルプリンター・モバイルルーター **看護**・サチュレーション 2 個・冷蔵庫 1 台・電子血圧計 3 台 **給食**・真空包装機・ブレンダー・食器類

2018年度 伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 事業計画

I. 基本理念

A. 精神的基盤

1. 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」を基盤として、利用者の皆さんが、かけがえのない人生を、最期までその人らしく生き続けることができるよう支援します。
2. 主の祈りをもとに、利用者一人ひとりの穏やかな日々の暮らしと、利用者相互の支えあい、助け合いで、なごやかでのびやかな共同体作りを目指します。

B. 運営方針

1. 伊豆高原十字の園敷地への移転新築を含めて、市と協議し具体化出来るよう進めて行く。
2. 職員の適正配置を進め、在宅事業の利用増加を図る。
3. 伊豆高原十字の園と連携し、事務部門・在宅事業のあり方を検討し、効率化を図る。
4. 伊豆高原十字の園と合同の食事提供を研究し、効率化を図る。
5. 一年を通し、一人ひとりが健康で四季を感じられる施設作りに取り組む。
6. 職員のスキルアップを目指し、研修体系を整え実施する。

II. 事業計画

A. 運営目標・事業計画

1. 養護老人ホーム

- 1) おひとりひとりの個性が、他の入居者や平和の杜にとってプラスに発揮できるように協力・支援していく。
- 2) ご利用者にとって充実した生活が送れるように健康管理を行う。
- 3) おひとりひとりの生活相談に応じ、必要な助言、情報提供を行い、安心して生活ができるように支援する。
- 4) 家庭的な食事を提供することを目標とし、伊豆高原十字の園と協力し合い連携を強める。
- 5) 2019年度に、伊豆高原十字の園との事務・総務を統合できるよう準備を行う。

2. ショートステイ事業

地域のセーフティ・ネットとして緊急利用に備え、関係機関と連携し利用者の生活再建や安心・安全な生活の維持継続に貢献する。

3. 生きがいデイサービス事業

利用者がその人らしく生活できるよう支援し、四季折々の行事にて季節を感じ、楽しんでいただけるサービスを提供する。14名の一日平均利用を目指す。

4. 通所介護事業

1) 平和の杜

「あなたと共に」ご利用者お一人ひとりのニーズに応じ、家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送れるよう支援する。14名の一日平均利用を目指す。

2) 一碧の杜くつろぎの家

地域に向け開かれた場所づくりを目指し、ひとりひとりに合わせたサービスの提供に努める。9名の一日平均利用を目標とし、在宅利用者の増加を目指す。

5. 訪問介護事業

養護ケアマネや支援室、他居宅介護支援事業所と密に連絡を取り、利用者の身体状況に合わせたサービスを提供する。

6. 居宅介護支援事業

本人家族に寄り添いそれぞれの話を傾聴し、置かれている状況の理解に努め、様々な負担を軽減し、それぞれが自分らしく過ごし望む生活ができるようにサービスを調整する。

利用者件数 39 件を目指す。

B. 数値目標

	養護 (指定管理)	老人短期	生きがいデイ (指定管理)	居宅支援
利用定員	50名	6名	15名	39名
利用数延数	18,250名	365名	3,374名	468名
1日平均利用者数	50.0名	1.0名	14.0名	39.0名
稼働率、稼働指数	100.00%	16.67%	93.33%	87.18%
稼働日数	365日	365日	241日	12月
単価(一人一日当たり)	6,191円	3,808円	6,427円	10,314円
老人福祉事業収入・ 介護保険事業収入	113,000千円	1,390千円	21,687千円	4,827千円
職員数(常勤換算)	14.85名	0.23名	3.58名	1.00名

	特定施設	地域密着型 通所介護Ⅰ	訪問介護	(再掲) 特定訪問
利用定員	24名	15名	26名	—
利用数延数	8,578名	3,640名	10,457時間	(10,001時間)
1日平均利用者数	23.5名	14.0名	28.6時間	(27.4時間)
稼働率、稼働指数	97.92%	96.67%	—	—
稼働日数	365日	260日	365日	(365日)
単価(一人一日当たり)	5,512円	7,609円	2,880円	—
老人福祉事業収入・ 介護保険事業収入	47,286千円	27,700千円	30,115千円	—
職員数(常勤換算)	1.07名	5.14名	5.26名	0.00名

	地域密着型 通所介護Ⅱ	(再掲) 特定通所	事業活動収入計
利用定員	10名	—	
利用数延数	2,808名	(1,300名)	
1日平均利用者数	9.0名	(5.0名)	
稼働率、稼働指数	90.00%	—	
稼働日数	312日	(260日)	
単価(一人一日当たり)	7,417円	—	
老人福祉事業収入・ 介護保険事業収入	20,463千円	—	229,584千円
職員数(常勤換算)	3.09名	0.00名	34.22名

Ⅲ. 事業規模

養護老人ホーム(50名)、ショートステイ事業(6名)、生きがいデイサービス事業(15名)
 特定施設入居者生活介護(24名)、通所介護事業(15+10名)、訪問介護事業、居宅介護支援事業

IV. 職員について

職種区分	事業名	施設長		職事員務		相生談員活		援介専門支		職看員護		支生援員活		練機指能導訓		医師		栄養士		職調員理		介訪護員問		その他		合計	
		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
養護老人ホーム ショートステイ	常勤	1		2		1	2	1		2		8						1		3						19	2
	非常勤			1		1				1						1				4						8	0
生きがい デイサービス	常勤		1			1	1				1	1	4													2	7
	非常勤										1	2														2	1
通所介護事業Ⅰ 平和の杜	常勤		1			1	1				1	2	4		1											3	8
	非常勤										1	2			1											2	2
通所介護事業Ⅱ くつろぎの家	常勤		1			1	1				1		4		1											1	8
	非常勤										1	3			1											3	2
訪問介護事業	常勤		1																			1	8			1	9
	非常勤																									0	0
居宅介護支援	常勤		1					1																		1	1
	非常勤																									0	0
合計		1	5	3	0	5	5	2	0	3	6	18	12	0	4	1	0	1	0	7	0	1	8	0	0	42	40

A. 配置計画

B. 職員組織について

施設管理者	施設長 鈴木啓之
施設運営会議 1	鈴木啓之、青木昌子、稲葉雅一
施設運営会議	鈴木啓之、青木昌子、稲葉雅一、鈴木みどり、水口朱美、岩澤絹代、川尻 寿
防火管理者	稲葉雅一
衛生推進者	青木昌子
感染対策委員会	鈴木啓之、稲葉雅一、鈴木みどり、水口朱美、青木昌子、岩澤絹代、川尻 寿
苦情解決 第三者委員会	鈴木啓之、青木昌子、岩澤絹代、里見敏和、貫洞祥子、辻由起子、川尻 寿 第三者委員；村上互（地区民生児童委員）、古屋廣昭（伊東市社協）

V. 年間事業（行事）計画

区分	内容
全体で行なう行事	納涼祭、敬老会（感謝の集い）、クリスマス会、新年会、
グループ行事	お花見、レクドライブ、食事会、ショッピング、
デイサービスの行事	お花見、敬老会、七夕、小遠足、運動会、クリスマス、新年会、節分、ひな祭り、レクドライブ、誕生会
保健・医療・衛生管理	入居者健康診断（年2回）、職員健康診断、防虫消毒
職員研修	全体勉強会、法人内研修、外部研修、施設見学、
職員会議	職員全体会議（年1回以上）、施設運営会議（月1回）、ケース検討会（随時）、 感染対策委員会・リスクマネジメント委員会（月1回）、
利用者家族関係	入居者懇談会（月1回）、家族懇談会（年1回）
保安防災対策	防災訓練 [火災・地震・夜間想定（年2回以上）]、防災委員会（年2回以上）
アクティビティ クラブ活動	カラオケ、民謡踊り、シャンテ、生け花、習字、おやつ作り、俳句の会、 大池小交流会、麻雀、

VI. その他（修繕・固定資産購入等）

1. 車いす対応車両（養護 2,000,000円 リース予定）、コピー機（リース）更新。
2. 防災用自家発電機を整備する。
3. 建物補修は、市と協議しつつ進める。

地域密着型特定施設入居者生活介護事業施設 軽老人ホーム(ケアハウス) 第2アドナイ館グループ 2018年度事業計画書

I. 基本理念

A. 精神的基盤

聖書「夕暮れになっても光がある」と、「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」を理念として、キリスト教の精神に立って、入居者様の意向を尊重し、個人の尊厳を保持しつつ、総合的にケアを提供できるよう創意工夫し、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

事業の目標は「自分らしく、その人らしく生き生きと、あなたの“生きる”を支えます」を施設の目標として、自立的な生活の支援を実践します。精神的(霊的)な糧を毎朝の礼拝を通して職員が受け、理念の実践に結び付る。

B. 運営方針

- ①第2アドナイ館グループとして、各事業所らしさを発揮し、施設、地域の利用者のその人らしさを支える。
- ②第2アドナイ館グループとして一体感を強め、チームとして利用者のその人らしさを支える。
- ③第2アドナイ館グループとしてお互いに積極的にコミュニケーションを図り、チーム力を高める。

☆2018年度 年頭聖句 “渴いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう。”

(ヨハネの黙示録 21章 6節)

上記聖句を今年度の精神的基盤に置き、私たちは積極的に支援を必要としている方々(“渴いている者”)の所に行き、各事業所が十字の園ファミリーとして連携し、適切な支援が届けられる様にする。新たな取り組みとして、第2アドナイ館グループ(西部地区)総合見学会の実施、総合パンフレットの作成、事業所間交換研修実施。あんき・のんき運営検討(継続)

II 事業計画

A. 運営目標

1. ケアハウス

地域に向けた取り組みの継続と交流の機会を作る。

- ・総合見学会にむけて地域の方を迎える事を意識し、施設環境や接遇を整える。
- ・交流を進めるために、行事、外出の機会、野点、ミニバザーを継続し行う。

相互理解を深め、利用者のニーズに柔軟に対応できるようなチームをつくる。

- ・昨年の介護技術基礎講座を対話型研修として継続し、相互理解とコミュニケーションの向上を図る。

2. トレーニング型デイサービス ぷらすワン

「ぷらすワンらしさ」を具体的な取り組みとして表し、ぷらすワンらしさを発信する。

- ・コンセプトが具体的に感じられる様にチームで協力し、ぷらすワンらしさを更に家族や地域、ケアマネさんに発信する。
- ・家族会の開催をする。

3. 十字の園 居宅支援事業所

新たな制度や仕組みに対応できるようチームの再編成を図り、地域における支援を必要としている方々を総合的にサポート出来るように体制を整える。

- ・特定事業所加算がとれる事業所として体制を整備する。
- ・共生型サービスも視野に入れ勉強会を行う。
- ・お互いのケアプランの課題を共有し、効率的な計画作成につなげる。

4. ヘルパーステーションほそえ

在宅生活を安心して継続して頂くために、サービスの統一と質の向上を目指す。

- ・身体介護の支援方法について研修会を開催し、利用者ニーズに不安なく答えられる様にする。
- ・お互いが支援内容の確認が出来るように仕組みをつくる。

5. 認知症対応型通所介護 のんき

地域の方とご家族にのんきを知っていただく。

- ・地域行事への参加、機関誌の発行。
- ・ご家族が参加できる行事の企画、家族会の開催、

職員も楽しく働ける職場作り。

- ・記録を見直し簡略化を図る。役割分担を明確にし、効率化を図る
- ・個人目標を立て、年2回職員面談を行う。

6. げんきプロジェクト根洗荘

自立した生活が継続できるよう行事計画を充実し、精神面・体力面をサポートする。

- ・居宅支援事業所と連携し、相談会を定期的に開催する。
- ・利用者家族も含めた支援として、遠出又は旅行を計画実施する。

7. 小規模多機能型ホーム あんき

地域に向けた行事の充実。地域拠点としての役割推進。個別ケアの充実。

- ・地域カフェ、バザー、開放日の実施。
- ・利用者の複数担当制、担当者会議と記録の充実。
- ・聖書を学ぶ機会をつくり、理念の理解を深める。

8. 公益的取組目標

地域サロン（カフェ）、中学生体験実習、小学生との戦争体験交流

B. 数値目標

	ケアハウス	地域密着型 特定施設	通所介護 ふらすワン	認知症通所 介護 のんき	げんき プロジェクト 根洗荘
利用定員	20人	20人	20人	12人	—
利用者延数	7,300人	7,100人	3,488人	2,763人	4800人
一日平均利用者数	19.8人	19.45人	16人	9人	20人
平均介護度	2.4	2.4	1.3	2.1	—
稼働率、稼働指数	98%	97%	75%	76%	—
稼働日数	365日	365日	232.5日	303日	255日
単価(一人一日あたり)	7,455円	7,284円	6,081円	14,054円	2,083円
介護保険事業収入・ 老人福祉事業収入	54,423千円	51,719千円	21,209千円	38,832千円	10,000千円
職員数(常勤換算)		17.人	5.4人	5.73人	3.44人
	小規模多機能 あんき	居宅介護支援	訪問介護	事業活動収入計	
利用定員	24人	105人	—		
利用者延数	(月) 18人	1200人	4800時間		
一日平均利用者数	(デイ) 10.5人	(月) 100人	(月) 400時間		
平均介護度	1.76	—	—		
稼働率、稼働指数	75%	95%	—		
稼働日数	365日	(月) 12月	254日		
単価(一人一日あたり)	(月) #####	16,974円	時間) 4,232円		
介護保険事業収入・ 老人福祉事業収入	43,147千円	20,369千円	20,314千円	261,316千円	
職員数(常勤換算)	10.5人	4.人	4.08人	50.15人	

III. 事業規模

ケアハウス・特定施設入居者生活介護事業（定員20名）、地域密着型指定通所介護（定員10名／午前午

後2単位)、指定訪問介護、指定居宅介護支援事業所、地域密着型認知症対応型通所介護(定員12名)
 地域密着型小規模多機能型居宅介護(定員24名)、元気プロジェクト 根洗荘

IV. 職員について

A. 配置計画

職種区分		管理者 施設長		事務員		生活 相談員		介護支援 専門員		看護師		介護士		機能訓 練指導 員		医 師		栄養士		調理師		介助員		その他		合 計				
事業名		専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務	専 従	兼 務			
ケアハウス	常 勤		1	2		1		1		1		7		1				1								14	1			
	非常勤			1								1											2		1	5	0			
通所介護	常 勤		1			1								2												3	1			
	非常勤							3					3													0	6			
認知症 通所介護	常 勤					1	2						2													1	4			
	非常勤						1					3	1	2											2	7	2			
元気 プロジェクト 根洗荘	常 勤																									0	0			
	非常勤											3	1											1	2	4	3			
小規模多機 能型居宅生 活介護	常 勤		1					1		1	5															6	2			
	非常勤									2	4	2													1	6	3			
居宅支援 事業所	常 勤							4																		4	0			
	非常勤																									0	0			
訪問介護	常 勤											2															2	0		
	非常勤											4													1	2	5	2		
合 計		0	3	3	0	3	6	6	0	3	1	29	9	5	0	0	0	1	0						2	0	5	5	57	24

B.職員組織について

施設管理・事業管理	施設長 鈴木 淳司
西部地区経営管理会議	浜松十字の園、アドナイ館、第2アドナイ館との3施設合同会議
施設管理会議	鈴木 淳司、犬塚 直子、山村葉子、夏目 勝志、栗田洋平
第2グループ主任会議	鈴木 淳司、小杉佳弘、市川百合子、古橋美恵子
防火管理者	鈴木 淳司 夏目 勝志 大谷光宏
運営推進会議	各地域自治会役員、民生委員、(聖隷、湖東、清水地区) 入居者・利用者家族、地域包括域支援センター、浜松市介護保険課職員、第2職員 あんき職員 のんき職員 ぶらすワン職員
苦情解決委員会 (年2回)	鈴木 淳司 第三者委員(野崎 玲子、芝脇和春)

V. 年間事業(行事)計画

区 分	内 容
毎月定例の行事	聖書の会(2/月)、讃美歌の会(2/月)、書道教室(2/月)、絵画教室(2/月)、 懐メロの会、お茶会(2/月)、買い物ア- (2/月)、誕生日会、午後プロ(適時)
年間定例の行事	お花見、運動会、流しそうめん、夏祭り、敬老祝会、 秋の遠足ドライブ、クリスマス礼拝祝会、餅つき、新年礼拝祝会、新春箏調べ、豆まき、お雛祭り、
保健・医療・衛生管理	健康診断、インフルエンザ予防接種、メガネ相談、医師診察日、検便、歯科衛生士
委 員 会	防災委員会、安全(環境)委員会、食品衛生・環境委員会、身体拘束委員会、 苦情解決委員会、事故対策委員会、安全運転委員会、認知症委員会
職 員 会 議	施設管理会議(1/月)、主任会議(1/2月)、リ-ター会議(1/月)、ユニット会議(各1/月、)あんき・の んき運営検討委員会1/2月 勉強会(1/月)、ユニット勉強会(各1/月)、各事業所での会議(1/月) 苦情解決委員会(2/年) 介護基礎講座(1/2月) 委員会主催勉強会(1/2月) 主任基礎講座(2/年)
防 災 訓 練	毎月「火災想定・地震想定・夜間訓練」、防災委員会(4/年)、防災機器点検(2/年)

VI. その他(修繕・固定資産購入等)

パソコン・ちょうじゅライセンス1台 公用車(軽)1台 LED照明へ切替検討 のんき・あんき修繕